

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                |            |            |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号   | 0171200157     |            |            |
| 法人名     | 医療法人社団 恵庭南病院   |            |            |
| 事業所名    | グループホーム 恵風     |            |            |
| 所在地     | 恵庭市緑町2丁目12番12号 |            |            |
| 自己評価作成日 | 平成22年10月18日    | 評価結果市町村受理日 | 平成23年2月15日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切にし、入居者個々のできること、出来ないことを極め、支援する事を、職員全員で取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

|             |   |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | <a href="http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171200157&amp;SCD=320">http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171200157&amp;SCD=320</a> |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                         |
|-------|-------------------------|
| 評価機関名 | 有限会社 ふるさとネットサービス        |
| 所在地   | 札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階 |
| 訪問調査日 | 平成22年12月1日              |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年5月、母体病院の看護師療の一部を改修し、開設した1ユニットのグループホームです。全職員は介護適任者として当病院より派遣され、管理者を中心に理念を根底に利用者の尊厳を守り、自立を支援するチームケアの実践により、利用者は生きる意欲や自信の回復を図っています。その姿勢として、利用者や職員による大家族の中で調理の一連活動や玄關掃除など、自らの好みに応じた家事の一部を自主的・積極的に担当し、好みや経験を発揮する喜びや楽しみを通して、笑顔の耐えない生活の一部を見る事ができます。看護師である管理者は、利用者の日常的な健康管理に携り、入居前から母体病院の担当医により継続した治療を受け、医療連携体制を確保した当ホームでの生活は、利用者・家族にとって喜びと安心の持てるホームです。

| V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します |  |    |   |
|--|--|----|---|
| 項目   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印                              | 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   |
| 56   | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)     | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています<br>(参考項目:9,10,19)  |
| 57   | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)           | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     |
| 58   | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                 | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) |
| 59   | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)  | 66 | 職員は、活き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      |
| 60   | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       |
| 61   | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)       | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   |
| 62   | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) |    |   |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価              | 外部評価 | 項目   | 自己評価  |   | 外部評価  |  |
|-------------------|------|--|---|---|---|--|
|                   |      |  | 実施状況  | 実施状況  | 次のステップに向けて期待したい内容   |  |
| <b>I.理念に基づく運営</b> |      |  |   |   |   |  |
| 1                 | 1    | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている   | 全職員は理念について、ケアにつなげているかを会議等で話し合っている。              | 地域密着型サービスを目指す理念は、廊下と居間に大きく手書きで掲示し、パンフレットにも掲載しています。会議の度に意識付けがなされ、ケア実践に繋げています。  |   |  |
| 2                 | 2    | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している   | 毎日の散歩時の挨拶だけでなく、地域の行事にも参加している。                   | 清掃や夏祭りなどの町内会行事に参加し、散歩時の挨拶や会話を始め、花などを頂いたりしています。住民や託児所幼児とは、窓越しの手振り交流も行われています。   |   |  |
| 3                 |      | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている   | 回覧板や運営推進会議で、生活状況や活動をお知らせしている。                   |   |   |  |
| 4                 | 3    | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている                                      | 活動報告だけではなく、質問や助言も活かし取り組んでいる。                    | 行政・利用者・家族代表などをメンバーに2ヵ月毎に開催し、ホームの現状や運営などについて報告しています。参加者からの意見が少なく硬直化の傾向が伺えます。   | サービス評価の結果をもとに「目標達成計画」や「振り返り」の開示を始め、ホームの課題を報告し、協力者・モニター役として意見を頂くなど、サービスの向上に活かせる会議への工夫を期待します。 |  |
| 5                 | 4    | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる   | 運営推進会議等で多くのアドバイスを頂きケアやサービスに活かしている。              | 市担当者の出席のもと運営推進会議が開催され、ホームの現状や情報交換が行われ、ホームの新人研修や運営上の課題について協力体制が築かれています。        |   |  |
| 6                 | 5    | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修での学びをホームの勉強会で報告しホーム内で身体拘束につながる行為がないかを話し合っている。 | 職員が研修会に出席し、学んだ事をもとに勉強会を通し、身体拘束となる行為やスピーチロックなどについて理解を深め、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいます。 |   |  |
| 7                 |      | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている  | ホームの会議等で虐待についても話し合っている。                         |   |   |  |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|------|------|--|---|---|-------------------|
|      |      |  | 実施状況  | 実施状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8    |      | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 機会があれば研修会に参加し、新職員に対してもパンフレットを使用し説明を行っている。           |   |                   |
| 9    |      | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | できるだけ事前に契約書・重要事項説明書に目を通してもらってから説明している。              |   |                   |
| 10   | 6    | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                      | 運営推進会議には家族にも参加してもらい、他の家族や市職員・包括職員とも面識ができるように配慮している。 | 関係書類には、ホームや行政の苦情相談窓口を明示しています。利用者・家族には運営推進会議に出席して頂き、関係者に意見を伝える機会を作っています。       |                   |
| 11   | 7    | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 職員の意見や要望は、月に一回の代表者との会議に話し合う機会を設け反映させている。            | 職員の運営に関する意見・要望は、管理者による月1回の法人代表者との会議の中で反映しています。特に、利用者へのサービスに関しては優先し改善が図られています。 |                   |
| 12   |      | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 希望の研修会への参加や職場環境の整備等、職員の意見を取り入れる為の面談や、話し合いを行っている。    |   |                   |
| 13   |      | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 研修会への参加や、経験を活かした勤務交代を行っている。                         |   |                   |
| 14   |      | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内グループホームネットワーク主催の研修会の参加や、交流会の参加を支援している。            |   |                   |

| 自己評価                       | 外部評価 | 項目   | 自己評価   |  | 外部評価              |  |
|----------------------------|------|--|--|--|-------------------|--|
|                            |      |  | 実施状況   | 実施状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |  |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |      |  |  |  |                   |  |
| 15                         |      | ○初期に築く本人との信頼関係<br>ホーム  | 入居前から関わりを持ち、入居後も本人の気持ちを引き出せるような関わりを持つように努めている。 |  |                   |  |
| 16                         |      | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている     | 入居前にホームの見学に来てもらい家族の思いを受け止める様にしている。             |  |                   |  |
| 17                         |      | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族のそれぞれの思いや要望を聞き、ケアに活かす支援を心掛けている。           |  |                   |  |
| 18                         |      | ○本人と共に過ごし支え合う関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                    | 入居者の得意なこと、出来ることを一緒に行ったり、教えてもらったりして関係を築いている。    |  |                   |  |
| 19                         |      | ○本人を共に支え合う家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている     | 面会時やメッセージ等で本人の様子を伝えたり、一緒に過ごす時間（誕生日会）をつくっている。   |  |                   |  |
| 20                         | 8    | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                 | 家族の協力やスタッフが面会や外出の支援に努めている。                     | 入居前の地域生活や人間関係を把握し、ホームの生活が、入居前の生活の延長上にある事を基本に、友人の来訪・同伴外出・文通など、関係性継続の支援をしています。 |                   |  |
| 21                         |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている             | 居間での会話やゲーム等で、入居者同士が関わりを持てるように職員が支援している。        |  |                   |  |

| 自己評価                               | 外部評価 | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
|                                    |      |  | 実施状況   | 実施状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 入院となった入居者の面会に行ったり、家族とのコミュニケーションを大切にしている。           |  |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |  |                   |
| 23                                 | 9    | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 活動の可能性について本人と対話し決定したり、会話や表情で意思をくみ取ったりしている。         | 入居時には、ケアマネジャーやケースワーカーなどからの情報を始め、利用者との会話・行動や表情から、思いや意向を把握しています。               |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 家族・医療機関から情報収集し、本人からも日々の生活の中で見出している。                |  |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 職員間で情報交換し、よりよいケアに努めている。                            |  |                   |
| 26                                 | 10   | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族の思いを傾聴し、職員全員で会議で話し合い、計画や支援の方法を決定している。         | その人らしく暮らし続ける計画や支援を盛り込んだ介護計画を作成し、毎月の会議で期間見直しや状況の変化した方を対象に、現状に即した介護計画を作成しています。 |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 介護記録や、口頭での申し送りで情報の共有を図り、ケアに活かしている。                 |  |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 本人や家族の状況に応じて、買い物の支援などを行っている。                       |  |                   |
| 29                                 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                         | 本人の意思を確認し、町内の活動や包括の催し物への参加を支援している。                 |  |                   |
| 30                                 | 11   | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                     | 当ホームでは経営母体である、恵庭南病院を退院され入居される方が多いため、定期的な受診を支援している。 | 利用者は、運営法人の病院からの入居者であり、従来の担当医による継続医療を受けています。毎月、職員同行の通院支援を行い、治療内容は家族に報告しています。  |                   |

| 自己評価                             | 外部評価 | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |   |
|----------------------------------|------|--|---|--|---|
|                                  |      |  | 実施状況  | 実施状況   | 次のステップに向けて期待したい内容   |
| 31                               |      | ○看護職員との協働<br>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                      | 看護職員を配置しており健康管理や受診を支援している。又介護職員は体調や表情の変化を見逃さないように早期発見に努め看護師への報告や医療につなげるように連携を取っている。 |  |   |
| 32                               |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院関係者と週一回の連絡会議を開き情報交換を行っている。  |  |   |
| 33                               | 12   | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 入居時に本人や家族に説明を行っている。又期間において、意思確認を行い取り組んでいる。  | 利用開始時、重度化の場合の対応指針を利用者・家族に説明し、同意を得ています。一定期間や状態変化時に医師を交え話し合い、段階的に確認を行っています。        |   |
| 34                               |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている   | 職員は救命講習をうける事とし、休日・夜間の緊急対応マニュアルを作成し周知徹底している。   |  |   |
| 35                               | 13   | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている   | 災害時のマニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施し近隣住民や消防署の協力のもとに訓練を行っている。                                  | ホーム内にスプリンクラー・消火器を設置し、住民参加の緊急連絡網や災害時マニュアルを作成し、年2回昼夜を想定した避難訓練を、住民の方々の協力を得て実施しています。 | 地域性から、地震や台風などの災害に対し、季節をはじめ昼夜を想定した実践的訓練を日常的に積み重ねることを期待します。 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |  |   |
| 36                               | 14   | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている  | 思いや意思を尊重しながら、個別のケアにあたっている。  | 利用者の誇りやプライバシーは、馴れ合いから生じる尊厳軽視の言葉使いなど、注意をしています。                                    |   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている   | 一人ひとりの理解力に応じた働きかけをし、話を傾聴する時間を設けて、自己決定できるようにしている。                                    |  |   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している                                   | 本人の希望に添って散歩やリハビリの声かけや支援をしている。   |  |   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している  | 理美容は本人や家族の意見に添って決定している。日々の洋服等は本人が選んで着る事ができる様に支援している。                                |  |   |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|------|------|---|---|--|-------------------|
|      |      |   | 実施状況  | 実施状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40   | 15   | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 入居者の食事の好みを把握し、味や硬さの工夫をしている。野菜の下ごしらえや味付け片付け等を一緒に行い、週に一度は自由メニューにしている。 | 利用者は食事の一連活動で力を発揮し、職員と共に楽しく食事をしています。週に1度の自由メニューは、利用者の献立により調理します。                |                   |
| 41   |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている         | 栄養士の献立をもとに、バランスの良いメニューとなっている。記録による水分の確認をし、お茶の時間を設けている。              |  |                   |
| 42   |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                  | 毎食後うがい、歯磨きを徹底している。  |  |                   |
| 43   | 16   | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている  | トイレを認識できるように考慮し、ポータブルトイレからトイレ、紙パンツから布パンツへと支援している。                   | 居室にトイレ、若しくはポータブルトイレを配置し、「行きたい時に行ける」。一人ひとりに応じた自立支援が効果を上げ、意欲と自信の回復が図られています。      |                   |
| 44   |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                  | 水分・運動・食物繊維・体操・薬の使用等個々に合わせた支援をしている。                                  |  |                   |
| 45   | 17   | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 現在は要望が少ないため、清潔保持のため予定を組み本人の意思を確認して支援している。                           | 利用者の意志を大切にし、週2回を目安に入浴できるよう支援しています。状況により、シャワー浴・足浴・清拭などを取り入れ、利用者に応じた入浴支援を行っています。 |                   |
| 46   |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                   | 個々の生活や体調を考慮しながら、できるだけ日中の活動を活発にし良眠が得られるように心掛けている。                    |  |                   |
| 47   |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている              | 各自の服薬表の活用や効果・副作用の確認をし、複数での確認を徹底し誤薬防止に努めている。                         |  |                   |
| 48   |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | テレビや新聞・音楽・ゲームを取り入れたり外出・買い物等、興味のあるものを提供できるように支援している。                 |  |                   |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|------|------|--|--|---|-------------------|
|      |      |  | 実施状況   | 実施状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49   | 18   | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している                     | 季節や入居者の希望を取り入れ、積極的に買い物や散歩等の支援を行っている。                             | 散歩・買い物・菜園活動などで、住民の方々との「ふれ合い」を大切にすると共に、運営法人の車で、花見・イチゴ狩りなどの季節に応じた外出支援も行っています。個別性の外出は家族の協力を頂いています。                         |                   |
| 50   |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 買い物や必要な物を買うことができるように、家族とも相談しながら支援している。                           |   |                   |
| 51   |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 電話は自由に使用でき、職員が取り次いだり、手紙を出しに行く支援を行っている。                           |   |                   |
| 52   | 19   | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間や玄関には花を飾り、居間では入居者とテレビやビデオ観賞している。廊下には入居者の写真や風景の写真を飾り話題づくりをしている。 | 生活感漂う家庭的な雰囲気のある食堂兼居間と廊下を挟み、浴室・トイレなどの共有空間と居室が繋がっています。玄関・居間には花を飾り、廊下にはイベント時に撮った写真を掲げ、全体的には光・音など五感刺激に配慮し、居心地良い共有空間となっています。 |                   |
| 53   |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 廊下に椅子やテーブルを置き、利用して頂いている。   |   |                   |
| 54   | 20   | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 本人の意向に添って、使い慣れた家具を持ち込んでもらい配置している。又ホームの家具類の使用もしてもらっている。           | 居室には馴染みの家具・生活用品を置き、その人らしく居心地良い居室を作っています。持込みが少ない利用者には、ホーム備品を使い、温かい雰囲気作りに努めています。  |                   |
| 55   |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している  | 居室の出入り口の段差を解消するためにスロープへの改修や、手すりの位置の変更、段差の場所は声かけ・見守り・介助で使用している。   |   |                   |